

# 松波むかし語り ここに生き続けて その19

今回のお客様

元会長は几帳面で記録上手

たかはし

高橋

たもつ

保

さん 86歳 3丁目

“会長交替の時は、「やり残したこと」や、公民館のカギは誰が持っているかまで書き残しました。”

—古いことをよくご存じの高橋さん、その秘訣は、必ず記録を残しておくという人柄であったんですね。



高橋さんが町会長を務めたのは、1991（平成3）～97（平成9）年の7年間でした。その功績の中でもっとも印象に残るのが、『松波のあゆみ』、つまり松波の歴史をまとめた冊子を発行したことでした。会長職の終わり、97（平成9）年7月に2500部印刷して町内全家庭に配布しました。当時、市内に910の町内会・自治会があったうち、地域の歴史をまとめたのは初めてだということで、「千葉日報」や千葉テレビでも紹介されました。



「松波のあゆみ」の表彰 左は宇井氏

記録を残すことにかけては、これほどマメな人はいないという高橋さん。宇井会長への引継ぎの際には、任期中の主な実施事項、やり残した仕事、そして公民館のカギは誰と誰が持っているかまでメモして引き継いだといいます。「私が会長としてあいさつすることはすべてメモをつくって臨みました。『これまでに行ったこと』『これからやりたいこと』をきちんとしたかったからです。今でいうマニフェストの走りというものでしょうか、やり遂げたことと残さ

れた課題をはっきりさせようと努力してきた性格がよくわかります。

高橋さんは、現在の県内八街市生まれ、1954（昭和29）年、結婚を機に現在の場所に移り住んできました。戦時中、無線通信士の資格をもって働いていた関係で、長くKDD（国際電信電話会社）の本社で営業を担当してきました。

轟町中学校のPTA会長時代、新しいアイデアや人々の心をつかむ手腕が買われ、1968（昭和43）年、町会の副会長に抜てきされて前記の会長職へとつながりました。お得意のメモから当時の仕事を抜き出してみると、例えばいま、春・秋の2回行われているグランドゴルフ大会。「平成元年6月、市のスポーツ教室の中に珍しいスポーツがあるのを見て質問した」とあります。“ゲートボールに似たスポーツ”との説明を受けて、さっそく松波でもやってみようと言われ、最初は椿森公民館に大会のたびに借りに行き、やがて競輪場からの援助によって現在の道具が揃えられたそうです。「平成3年、倉庫の建て替え」「平成4年、公民館厨房室の改造」「階段手すりの取り付け」「自主防災会の設立」と続く中で、この『町会だより』の発行を始めたという一項目もありました。広報の大先輩でもあります。

「ごみステーションにチリトリを掛けるコンクリート製のポールがありますね。亡くなった能瀬文蔵さんのアイデアなんです。いまでは便利だということで近隣の町会も整備するようになりました」—誰が何に努力したかをもよく記憶している高橋さん、趣味の欄には「宝生流（ほうしょうりゅう）謡曲」、健康管理の欄には「サイクリング」とありました。



グランドゴルフ大会が発足